

Kobe

神戸まつりガイド



モデル／浜野豊子さん
ジョン・アルカイヤ君

北野町の坂道の白い館
街のにぎわい、そとぬけだして
今日のおまつりの見どころを
考えたり、友達に絵はがきを書い
たりします



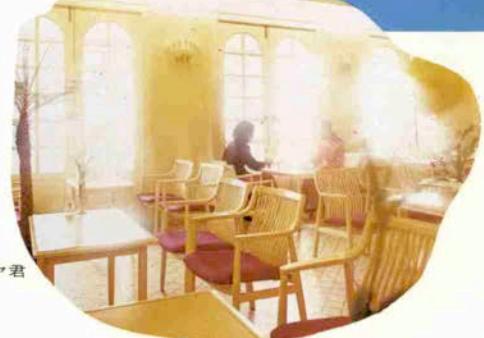
レンターサロン・コーヒーショップ

ルカ・カルトン

神戸市生田区北野町3-67-2

TEL. 241-4321-2

A.M.10:00~P.M.12:00



トアロードを降りたら、ファンタスティックな扇を
あけて、かわいいぬいぐるみ、おみやげにして
かわいい風船もらって出かけましょう



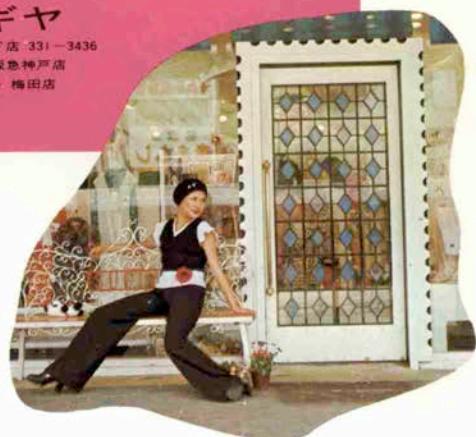
婦人服地とおしたての店
コマツヤ
神戸・三宮センター街2丁目
TEL 331-1833・391-8809
さんちか店 TEL 391-5217
さんプラザ店 TEL 331-0607

ウインドーのお祭りにかいた
落書きみながら、のぞいたら
夢みるような可愛いプリントが
いっぱい、そんなおしゃれな
布地買っちゃおう

服飾とおしゃれ小物

スギヤ

トアロード店 331-3436
六甲店・阪急神戸店
心斎橋店・梅田店
宝塚店





KENT SHOP
フナキヤ
 神戸元町3丁目
 TEL 321-0356

手と足が長い彼にでも
 ぴったりのサイズがある
 なんてびっくり。
 木造りの店内が私の好きな
 店のひとつ。KENTの
 トフッドな商品が
 いっぱい。

舶来地のシャツがいっぱいあって、今は夏の
 シースルーがいっぱい。彼とおそろいのシャツ
 ドレスもできます。とっても大人っぽい店だ
 から好き。

神戸シャツ

神戸／大丸前 TEL 331-2168
 東京／東急・渋谷 TEL 462-3433
 東急日本橋 TEL 211-0511
 広島／広島福島IF TEL 47-6111



Fairy

5月の風にさそわれた



おしゃれグラス
神戸眼鏡院

神戸元町3丁目 TEL 321-1212
 神戸三宮さんちかタウン
 TEL 391-1824-5



ノップの
 彼と2人で
 サングラス
 の百面相
 ごっこ。
 テレビの
 ミラーマン
 みたいな
 サングラス
 かけて
 香こび合
 ました。

Fairy Kobe

5月の風にさそわれた神戸まつりガイド

5月はもうビールの季節、今日の祝日に乾杯ノ汗をかく程の晴間に冷めた一ビールがキューンと通って。バザールで搜したアクセサリーが今日の宝物 VIVA CARNIVAL! /

ピア・ホール

ニュー・トーキョー

神戸三宮さんちかタウン TEL 391-5069

生田区柳筋 TEL 331-1422

三宮ピアガーデン(三宮ビル) TEL 221-3598

三神ピアガーデン TEL 331-5520



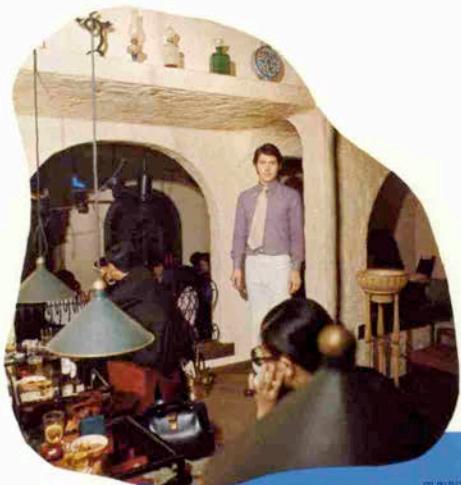
せっかく KOBEへ来んだから神戸ステーキ食べましょうと彼にねだって、トアロードのレンガのお店へ到着。お肉いっはい食べて明日はパレードへ飛び入りしようかしら。
ステーキ ¥1800より

ステーキハウス

れんが亭

生田区下山手2丁目トアロード

TEL 331-7158



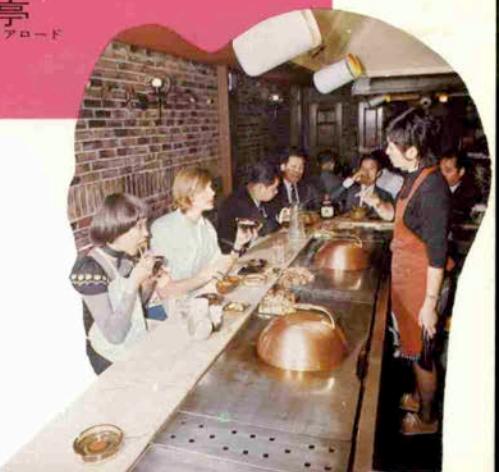
噴水広場でゴーゴー踊ってグッタクタ、でもまだものたりなくて、白いお店の外まで聞えてくる生バンドのジャズやロックにひき込まれ、また踊ってしまった。おまつりの最後の余韻残してくれる店なのです。

mission de mode

花屋敷

神戸三宮フラワード市役所前

TEL 251-2109



baL'On
antique
series
I 珈琲ミル

コレクター
岡田英男さん
<六甲ギャラリー>



才月の年輪が何げなく滲む
古いスペインの
珈琲ミルと珈琲わかし。
毎日の台所の片隅で息づいた
無口な、暖たかい心が、
ここちよく
私を包んでくれるので。



英国風喫茶・レストラン

バロシ

神戸三宮サンプラザ地下
TEL 078(391)1758





る。柳田さんの手に触ると、人形が表情豊かな生きた人間のよう動きだすから不思議だ。

妖艶な女形の首(右上)と若女形を巧みに遣う柳田さん(左)

北神戸をゆく

(5)

原野の「山田文楽」

黒部 亨 〈作家〉



梯田さんの手にかけると人形が人間のように踊りはじめめる

郵政省は今年三月一日から、「文楽」を題材にした郵便切手を発行した。古典芸能シリーズの一つで、「熊谷陣屋」「野崎村」「阿波の鳴戸」の三種類、計八千二百万枚。黒子が人形をあやつる名場面を多色刷りで表わした図柄だが、なかなか好評を博しているところをみると、文楽に対する日本人の郷愁は、いまなお根づよいものがあるようだ。

兵庫県は文楽発祥地としての長い伝統と誇りをもつてゐる。人形芝居はもともと中世からあらわれたが、近世に他の芸能と交渉をもつて展開した。たとえば本県では、西宮の夷神社を本拠とする傀儡師(漂泊芸人)と、三味線伴奏による淨瑠璃語りとが提携して近世的な人形芝居が生みだされ、他の説経節系のものを押さえて隆盛をみせた。その後、京・大阪・江戸の三都が交通して種々の流派を生んだが、竹本義太夫が竹本座を設立するに及んで、しだいに主流が義太夫節に統一された。だから文楽は一口に言って、義太夫節という淨瑠璃を使つて演ずる人形芝居ということになる。

「文楽」の名は、淡路出身の植村文楽軒と

幕の上に高く差しあげて遣ったものだが、現在はすべて人形遣いの姿を見せる「出遣い」という形式で行なわれている。山田文楽もそうである。



神戸電鉄箕谷駅の西方二キロ。山田町原野に住む櫛田菅治さん(73)は、山田文楽の孤墨を守る最後の人形遣いである。朝若という芸名で男役の人形を遣い、この道にはいってすでに六十三年になる。



畳の上に並べられた50個あまりの人形は櫛田さんの貴重な財産である

義を聞く。

「淨瑠璃はもと薬師如来から発生したものやそうです。人間の苦楽を劇化したものでんな。説経節といいう短篇淨

瑠璃がおますけど、あれは坊さんの説教を聴かない百姓たちに、色気をつけた淨瑠璃にしてわかりやすく教えたものでっしゃるな。この山田の人形芝居は、ずいぶん古いものでんねやで。江戸時代には禁止になつたこともありました。でも、子供芝居の小さな人形は使うおつたよです。神さま供えたわけでっしゃるな。享保から宝曆にかけてのころが、いちばん盛んだつたと聞いてります」

櫛田家のあるこの山裾は、旧原野村の元戎といわれる。その小字名から推察して、人形芝居発祥の地といわれる西宮戎や傀儡師に、何らかの関係があつたのではないかと思われる。

それを裏づけるように、近くの天津彦根神社の境内に人形芝居系の農村舞台がいまものこつている。専門家の調査によると、正徳二年完成のかなり古い形式のものらしく、全国的にもめずらしいという。

「このあたりは、神社からみて出雲族だったと思いまね。出雲といえは出雲の阿国でも知られるところ、歌舞の発祥地でっしゃる。当然、その進出も考えられる道理人形劇では、人形遣いは幕の中にかくられて、人形だけを下をかくす額縫のような役目の手摺りがあるのがこの芝居の特色で、花道はつかわない。

劇の進行は太夫と三味線彈きによつて行なわれ、彼らは観客席から舞台にむかつて右側に斜めに坐る。初期の人形劇では、人形遣いは幕の中にかくられて、人形だけを

櫛田さんはひときわ素朴なつくりの首を一つとて見て見せた。慶長年間（一六〇〇年ごろ）のものだという。手にとつてみると子供のこぶし大で、他のものより重い。古い形式のものほど形が小さく、まゆは筆で描いたものが多い。口や目の動かない木偶である。所蔵品のうち古型が十一个あるという。

山田文楽で使用する人形は、大阪文楽座のものよりひとまわり大きく、衣裳をつけると普通八キロ近くになる

首の柄（胴串）に「天狗久」「人形忠」など、製作者の焼印名がはいつているが、大部分は無銘である。

「人形は呼び名、使い道がきまつておりましてな。時代物と世話物に分かれています」

櫛田さんが首を一つ一つとて説明する。「丸目」というのは豪傑につかう人形で、安倍宗任・曾我五郎などの役。「別師」は大将格で、さしすめ源義経役。とすれば「角目」は熊谷直実といふところである。「家老ガシラ」は知恵者の役で、たとえば諸葛孔明か菅原道真といふことになる。そのつもりで見ると、なるほどみなそれが

「赤肉のほうは、日に焼けたところをあらわしてまんね。白肉のほうは家の中いうことです」

なるほど、そこまで細かく工夫されていたのかとおどろく。塗りも厚くなめらかで、つややかな光沢を放っている。いずれもツゲの木で作ってあるのは、ツゲが割れ目のこない木だからである。



櫛田さんの話を聞きながら、人形を手にとてながら筆者

駒吉さんは生来、淨瑠璃や芝居の好きな芸人気質の人だったが、若いころ大阪の文楽を見て大いに発憤。自らも竹本文楽と名乗り、わざわざ阿波の徳島へ乗りこんで、同地のメヌキ屋（面作り師）に首を作らせた。ちょうど明治天

らしい顔をしている。

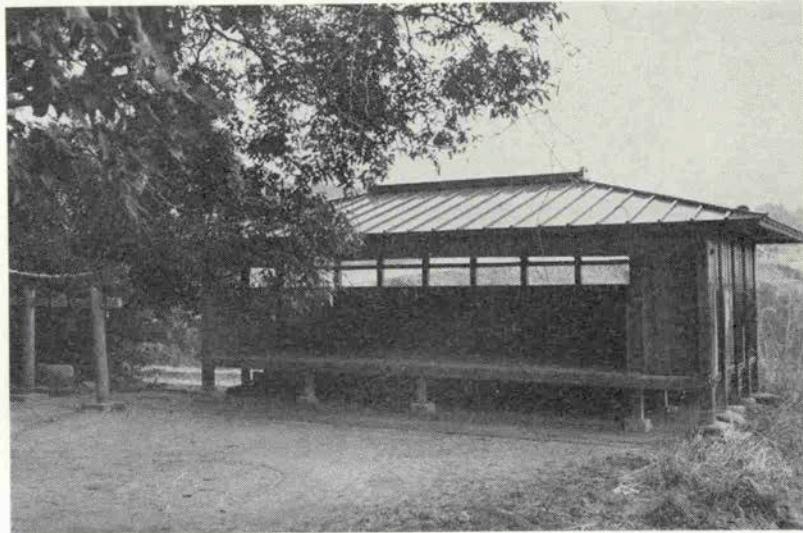
「ヨリト」は年寄り、「セワヨリト」が百姓町人「中丸」がカタキボの下つ端。追われて逃げる役の「ハナムケ」もある。女形は若女形が美しく、まゆを落とした白髪が老女形。庶民におなじみの「オカメ」「ヒヨツトコ」もあれば、顔が縦にパックリ割れる特殊ガシラの「ナシワリガシラ」もある。

首の中に赤色と白色がある。

山田文楽は、淡路のそれに比べて規模が小さく、座員は原野部落の同好者十数人によって構成されていた。ほとんど農業だから、農閑期にお宮の境内や仮設小屋などに集まり、吊り舞台にシコロ幕を張って人形芝居を楽しんだ。一座結成いらい八十多年。櫛田さんの先代駒吉さんの代にもつとも隆盛をきわめた。

「祖父の代までは庄屋でしたな。父の代にすっかり落ちぶれてしまいましてん」と、櫛田さんは苦笑する。

駒吉さんは生来、淨瑠璃や芝居の好きな芸人気質の人だったが、若いころ大阪の文楽を見て大いに発憤。自らも竹本文楽と名乗り、わざわざ阿波の徳島へ乗りこんで、同地のメヌキ屋（面作り師）に首を作らせた。ちょうど明治天



かつて山田文楽が上演された農村舞台。昔の面影を今に伝える

東	西
同田同同同同前小野大橋	同田同同同同前小野大橋
道結勝利橋	道結勝利橋
文賀山船吟井玉山茶養丸	文賀山船吟井玉山茶養丸
花玉木花花鳥石笠老笑	花玉木花花鳥石笠老笑
主	主
人形	人形
原野谷主會場	原野谷主會場
主	主
花石枝	花石枝

ひと昔前催された素人淨瑠璃大会番付表

皇が須磨に行幸された年で、いわば記念事業のつもりだった。現在櫛田家所蔵の中に、明治二十四年と墨書きした首があり、当時の作を証明しているが、他の首もほぼそこの前後数年間に製作されたものと思われる。

人形の首はきわめて高価で、現在でもすぐれたものは一個数十万円はするという。駒吉さんは大金をふところにして徳島へ行き（阿波の米はまずいと言つて、自分の家の米をかついて行った）首ができあがるまで現地に逗留した。

そればかりか、とうとう人形師や三味線弾きを何人も連れてきて自分の家に居候させ、村の人たちを集めて芸の伝授を受けさせるというほど熱中した。近辺の親しい芸人たちも、数多く同家の世話になつてゐる。いわば当時の櫛田家は、文楽の梁山泊の親があつた。もちろん、そんなぜいたくができたのも、資力があつたればこそである。櫛田家は屋号を「くしや」といい、代々近隣に知られた資産家だった。文政四年（一八二一）に江戸表に申告した文書には、「凡五百年、攝州八田郡山田庄原野岡田勝左衛門分家持高四石五斗六升八合くしや三右衛門」とあり、五十町歩ほどの田畠があつた。

それらの財産も、やがて失なれていった。駒吉さんは人形淨瑠璃がうまく、男振りがよく、おまけにふところは豊かとてきているのだから、粹筋の女子衆にモテないはずがない。そのほうの出費も少なくなかつたにちがいない。

駒吉さんが一座を結成したのは日露戦争のころだったむろん彼が座長で、副座長格は同地に住む人形遣いの古川玉次郎さんだった。素人の百姓たちが人形淨瑠璃一座の旗上げをしたのだから、さぞかし威勢天をつくものがあつたことだろう。

おかげで櫛田家の家産はますます傾き、田畠も少しづつ人手に渡つていった。かんじんの人形の首も、もともつとたくさんあったのだが、背に腹はかえられず他人へ譲り渡したという。

◇

当主の柳田さんは、十歳のころから父の駒吉さんについて手ほどきを受けた。

古川玉次郎さんの子丞一さんも、松雀と名乗ってやはり父から女形を習い、二人は小さいときから父親の形の裾をやらされた。文字どおり父子相伝の名コンビである。

「あのころは、ずいぶんとあちこちに巡業を行ったもんですわ」

と、柳田さんは感慨ぶかげに目を細める。

大正の中頃が全盛期で、柳田さんは父について有馬、美濃、明石郡内六十か所を巡演した。神戸新聞地では三十日間の長期出演をしたし、京都では十六日間も打ち、三日間は木戸満員札留も記録した。もちろんその期間中家業はそつちのけである。

近くは昭和二十九年三月、神戸オリエンタルホテルで外國観光団に披露。大好評を博して県から感謝状をもらつた。当然、外人ファンもいる。アメリカのダートマス大学のウイリアムズ教授もそうだし、前ドイツ総領事のメーブス夫人のごときは、「これこそ日本人のチームワークの芸です。ぜひミュンヘンに来て上演してほしい」と、すすめたほどである。

むろん修業中は苦しかつた。長いもので四十分から五十分かかる。その間、両手十本の指をフルに活動させるわけだが、人形それじたいがかなりの重量ときていて。

「首のほかに衣裳がありますやろ。人形に荷物をかつがせたり、刀をさしたり、切腹のときは髪をさばいたりせなあきませんからな。傾城の衣裳など、とくに重いもんですよってなあ」

最高十五キロの重量だから、手がだるくなつて苦しい目玉、まゆ、口、うなづきなど、動作の種類が多く複雑である。みな指先一つでやつていく。まちがいは許されないのでだ。

指の動きが異常に発達するのも当然である。おかげで

柳田さんは、全日本珠算段位認定連盟から、名譽三段の段位を贈られている。指が常人よりも自由自在に動くのも、六十年の修練のせいである。

首の一つ一つをよく見ると、八十年間の活躍を物語るよう、どれもいたみがひどい。戦時に損傷したものが多いう。ことに顔の各部分を動かす小ザル（栓）の糸が切れているのが多く、首を割つて修理しなければならないものもある。首だけではない。付属品の衣裳、小道具、ポンゾク（足）、つかみ（手）なども満足のは少なくなつた。

人形のいたみは、そのまま文楽そのものの存続に、暗い影を投げかけているといつてよい。輝やかしい足跡をのこした山田文楽も、各地の古い郷土芸能と同様、後継者難という致命的な壁にぶちあたつて滅亡寸前にきていたのだ。

「いまの若い人は、人形淨瑠璃なんぞに理解がおまへんからなあ。後継者が現われたら、いつでもよろこんで教えてまんねやけどなあ」

と、柳田さんは嘆く。滅びゆく伝統芸能を座視するに忍びないのだ。

神戸市内に散在する農民芸能は、農業そのものの転換に歩を合わせて、目下急速に衰退しつつある。これらの保存は文化行政上の急務であるにもかかわらず、いまだにこれといった対策がたてられていないのはどういうわけだろう。地元の積極的な温存対策が要請されるのはもとよりのことだが、せめて現存する人形の完全保存だけでも早急に着手すべきではあるまい。

わが子をいたわるよう、老いた手で人形を撫ぜているのだ。取材班は複雑な感慨を抱きながら、夕暮れの迫つた柳田家を辞去した。

（次回は立杭焼です。）

個性ある自然なヘアーリ



株式会社 美容室 **エリザベス**

本店 三宮神社山側三上ビル2F TEL 331-8894・4917
芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 TEL 0797-22-4067
西宮店 西宮市阪急西宮マンション北館1F TEL 0798-67-1294

お貸衣裳 花嫁衣裳サロン

畠尾美久子の店 生田神社前 TEL 331-3258
美容担当 (東京初代 遠藤波津子直流)
専属結婚式場 生田神社・オリエンタルホテル
阪急六甲山ホテル・住吉学園・蘇州園他

幸せな二人の
縁を結ぶ
結納儀式用品



結納儀式用品

遠藤福寿堂

神戸大丸姫路やまとやしき
そごう神戸店 姫路山陽百貨店
東店 トア・ロード那寿2階 TEL (391) 1871-3
西店 長田区市バス菅原東入る TEL (575) 2251-3

土を原点として

中 西 勝
赤 根 和 生
（画家・二紀会）
（美術評論家）

★土俗的なものへの回帰

赤根 おめでとうございました。月並だけれど、感想から、ひとつどうぞ。

中西 そうですね……。

赤根 これは非常に漠然とした、おまけにどうとでも答えられることだから、かえって厄介だな。

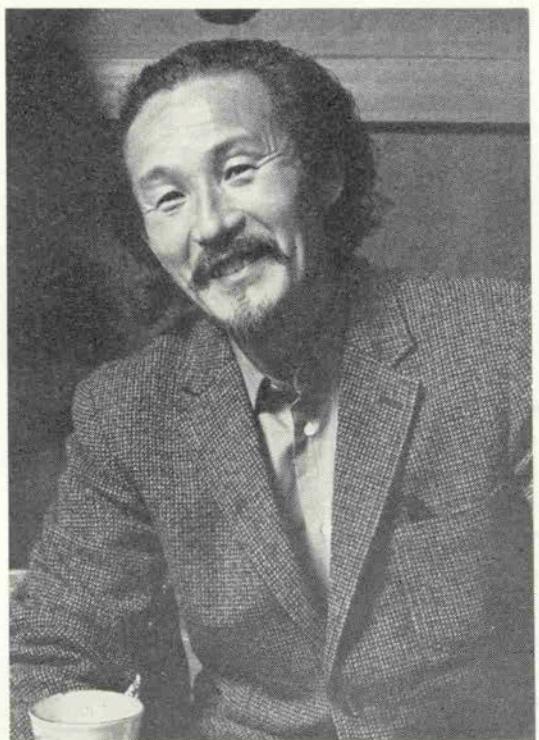
あなたは子年生れで、その当り年の號頭に安井賞を、受賞なさったんだから、これはおめでたい限りなんだけれども……。ぼくも当り年で、今日はひとつ年男大いに語るということなんだけどね。

実は、ぼくも安井賞の推薦委員なんで、あなたが帰国してからは毎回清き一票をいれてきたんで大変嬉しい。あれはひとりでも推薦があると候補にとりあげられるんですよ。向うで肥やして來たビジョンを日本の風土の中で一年間はぐくんで、それで出来てきた作品が対象となつたわけで、向うの生活においがまだ生きしい。これはやはり、安井賞の系列中でもかなり異色ですね。だから、ポンと当つたということではなくて、やはり長年の道程が実を結んだわけだし、外国生活がかなり大きなウエイトを占めている。安井賞の対象は、具象に限られていて、中西さんは、長い間抽象をやつてきたので、その対象にはなりにくかつたんですが、向うへ行つての間にはつきりと具象の姿勢をうちだした。だから改めてその対象となつたわけです。

中西 まあ、とつたということは嬉しいといえば嬉しいですね、卒直に言つて。で、結局、支えにもなるし、

はげましになる。もひとつ言えばあまり喜んで有頂天になつてもいかんしね。ちょっと喜ばないかんぞというような気持ちもありますしね（笑）

どちらかと言えば、行くまでのボクの絵というのは、抽象的なものと考えられていたし、それが外国旅行をして僻地などを回つて、土俗的な生活に接していますとね、もともとボクはこんな土器類を集めていたでしよう。そういうものが生きて動いて生活しているところを見ますとすごくね、言うならば美術館で作品に接するよりもっと感銘をうけたということが言えると思います。ところが、ボク自身が行くまでに描いていた世界とね、この趣味であつめていたというかこういう絵のスタイルと違つた色つや、形をしたものを、ムシが好いてあつめていたのですが、ところが、そういうものをみましてね、なんでオレはあれをそのまま絵にしなかつたのだろうかと思いましてね。ある意味において、これだけ感激していりし同時にあいつたものを無意識ではないけれどもムシが好いてあつめていましたので、ボク自身の一番根本的な問題とその時点において感激していることが合致して、オレはこれでいかねばならない、という様なことをまず考え、それで帰つて来て、ま、体の調子もあまり良くなかつたのですが、落ちつきましたし、どちらかと言えば開きなおるような気持ちで描いたつもりなんです、この場合は。まあ、ボク考えますのにね、非常に単純な考え方でしようけれども、赤ちゃんができると同時に母親になるわけでしょう、どんなに若くても。やっぱりそ



できるだけ展覧会へ行かないで……(中西さん)

の当初の母親になった段階では、いい母親になりたいという意味で、例えば愛という言葉があるならばね、だれよりもいいお母さんになりたいと、その誰よりもということをもう少し分析して考えますとね、全人類始まって以来のお母さんでありたいということが、その願いの中には言葉じゃなくて感覚的にあるんじやないかと、そういう意味でボク自身でも、一度そういったものにとりこんで、やつてみたいと、これで駄目だつたら駄目でいいと、これを命がけでやつてみたいという気持ちでした。受賞作を構図の面で、説明するのはあまり好みません。が、常識的、全く常識的と心掛けました。垂直線一まん真中ですね、そこに母親の頭と子供の頭があつて、母親の手が水平線になっているんですね、それが平原な大地であつたり母親の愛であつたり——安定性ですね。そこへ子供がリスのようにチヨツといる、それがもう完全に左右シンメトリックな構成なんです。できるだけ平面的ではなく、立体的な重量感とか、そういうものを出したかったと……。考えてみますと、ルネサンスぐらいか

べっていたんですがねオレは三島由紀夫じゃないけど原点をかいんだと。まつたく常識

だけど、案外ね、人間の原点、原点といいながら、本当の原点がわかつてないかどうかということがある。例えば土という問題でも、小学校で学んだり、親に教えてもらつたりの程度の理解では駄目です。旅行していますと、土といつても実に多種多様でスケールが大きく、想像を絶します。もつと本当の原点とか基本を精神的にもつかななければ、と考えました。それで駄目なら三島じゃないけど、本当に腹切つて首切らねばならないと二紀会の小西保文君なんかと話していたんですが、それが、たまたま、賞とれたので、そんな意味で気持ちがよいですね。

赤根 安井賞というのは年中行事ですから、案外ずるずると決まつていくということがあつたわけですが、中西さんの場合は、一つの姿勢が決つたときに受賞なさつたという点で今までにないケースですね。元町画廊の五人展の場合は、まだジプシーだったわけですが、それから落ちついて、大地とのつながりという愛の深い実感を力

らの母子像ではそういつたものがだんだん少くなつて、そういつたものが原点であるかも知れないけれど、もつとモードのある……。

赤根 そうですね。マリアがキリストを抱いている聖母子像は中世のイコン以来のテーマだけれど、ルネサンスに入つてからもシリックな構図は皆無に近くて、ほとんどキリストが横つちよにチヨンとついている。だから、今度の構図というのはかなり、こう……かなりどころか相当ひらきなおつた構図ですね。

タマリとして出したんじゃないかな。

さつき、あんまり喜びすぎないでという言葉がありましたが、案外安井賞もらつた人がつぶれていくんですね。引っ張りダコになつたりで。でも、もつと若ければ有頂天になるかも知れませんが、向うからやつてくるぐらいのつもりでいたのでしょう。(笑)

中西 行くときは不景気な時代でしたから、相当ムリして金作つて行きましたが、『行きはヨイヨイ帰りはコワイ』で、帰つたら、車に絵を積んで日本中、街頭展示して食つてやろうというぐらいいの気持ちでした。

赤根 もともと、モチーフはちがついても、なにをかいても土俗的なものはもつていましたね。

それに同じ人間をかいでも、幻想的なものとかエロチックなものがはやつてますが、中西さんの場合は、うわついた幻想でもなければ時流にのつたエロチズムでもない。根源的な母子像、非常に土臭いという点で、原点の重みがあります。

★活字見るまでは信じなかつた……



土俗と現代のかかわり合いを……(赤根さん)

それがちょうど、作品が地方を回つていたので、間に合わないし、宮本三郎画伯に電話したんでどうしましょうつてね。そしたら「なんの話しや」というわ

赤根 前の晩に東京から、電話でニュースが入つたものですから、当然、本人にも思つていたので、ま、次の朝でも思つて、ちょっとはやかつたけれど電話して、おめでとうと言うと奥さんが出ていらして「なんでしょうか?」つてわけで……。

中西 女房もボクも全然知らなかつたんですよ。つまり発表は受賞式当日だろうと思つてゐたんです。だから二人で出歩いていて、朝の三時ごろ帰つてきたんです。ところが朝八時に電話がかかつてくるでしょ、「絵描きの家に朝から電話かけるなんて誰や」というわけで、それで知つたのですが、新聞みるまでは信じなかつた。

赤根 ボクもよく、かつぐからね……。信用ないんだ。中西 陳舜臣さん、元町画廊の佐藤さん、御近所の人それに友人も父母もよろこんでくれましてね。それからたてつづけに電話がかかつてしまつて、みんなおめでとうというわけで、つい間違い電話にでも、ありがとうございますつてね、習性になつてしまつて。しかし受賞があれほど反響を呼ぶとは思つていませんでしたね。といふのは、ある考えがあつて抽象的な絵を描いていましたから、二紀会から推せんされなかつたでしょ。そんなことで、ある意味で安井賞については無関心だったのでは、もらつたらどうなるなんてことは考えていなかつたのです。日本に帰つて、秋に百二十号のインディオの母子を発表しました。そしたら安井賞展の推選が來たのです。

けで、安井賞ですといふと、「君、五十過ぎてゐるのちがうか。」いわれましてね。不審ながら出品したら三等でしたね。

赤根 五十定年というのは少しはやすぎると思ひますね。あんまり若くて受賞すると、つぶれやすいですね。でも、俗っぽい話しだけど当り年にあたつたといふことはいいですね。こういふのは遅いほどいいと思いますね。そのあとが楽しみですよ。これからですね。

中西 都会生活してますとね、どうしても感覚的に向うで得たものがすりへつて行くと思うんです。観念的なつていくということで。希望ですが、来年位、もう一度、ペルーあたりへ行つて土俗の生活をして止めをさしたいですね。それで今度は日本的なものを、ま、自分の周辺ですわね、これをテーマにしたいと思つてます。

今は出来るだけ展覧会へ行かないようにしてるんですね。美術の本なども……。で参考になるものといえば、こういった集めている土器類ですね、こういう土臭いものの中にはいところがあるので、そいつを吸収していくと……。でこんなものをまわりにおいて、モロッコとかペルーの音楽かけて、神経をちらさないようにして絵をかいているのです。

赤根 そういうものと現代のかかわり合いといふものはどうなのかな?、その辺に興味がありますね。ペルーと日本との間が……。

中西 二紀会でスライドで写して批評会をやつたんだがね。その時、鴨居玲君がいまして、ボクの絵のインディオの服のシワがいいと言つて、彼の言ふ不気味さがでいい、そして中西君は縄文式土器を研究しているといふんですよ。ところが反対でね、ボクは不気味さを嫌うし縄文土器よりも弥生の方が好きなんです。まろみのあるいなれば、平静な愛といふか、徹底したものですね。そういう行き方をしたいわけですね。徹底した優しさといふのがいいですね。横井庄一さんのような生活はいいですね共感できます。

★「今出来」のものは……

中西 南米はメキシコ、グアテマラ。向うの方はモロッコ、トルコ、ギリシャ、ユーゴ、ブルガリアとまわりました。トルコあたりへくると、川をへだててイスタンブールがヨーロッパで、ウスクダラが東洋だなんてことをきました。それに、モロッコも絶対忘れられない国です。そんな風に、外へ出てみて生きている人間を見て、たしかめ、たしかめ、旅したのですが、たとえば、ゴッホとかゴーギャンとかがヒューマンな作家であるということを言わっているんですが、なにか、その生きている僻地の人間をみますと芸術の作品以上にいいものを見てしまつたという気がするんですね。

それに、ルネサンス以前のイコンなどのように、サインもない作品に比べますと、ルネサンス以後のものは、何か、厚みに欠けるといいますか、「今出来」という感じがするんです。昔もののがごさといいますかね。ルネサンスあたりからキリストでも健康優良児みたいになつてくるわけですよ。

赤根 問題はそういうものが過去にしかないかといふことです。あるいは僻地といふ言ひ方は良くないけど、そういう場所にしかないかということです。

中西 そういうことで、しかし、私はそれを全面的に肯定しているわけではなく、そこには古いしきたりがあつて大変なわけです。衣装でも民族衣装以外着たら村八分にされるとかね。富裕な部落と貧しい部落がとなり合はせてあります。どうして一緒にならないのかと思うとね。人間というのはこわいと思うことがいくらでもありましたよ。それと、ちょっと面白かったのは、シベリア鉄道で帰つて来ますと、このての顔が実際に多いのに驚きました。日本よりも多いわけですから考えさせられますよ。

赤根 アメリカなど黒人問題はあつても、民族間の変な感情なんかまるでありませんからね。ヨーロッパは、少し事情が違いますけれど……。

中西 アメリカというのは、生まれると隣に黒人がいるでしょう。北はエキスモー、南はメキシコ、資源も豊富開拓の歴史もあるし、芸術もスケールが違うという感じ。

それで面白かったのは、ベニスのビエンナーレへ行ってみると、日本館は、まったくアメリカの最先端の絵が並んでるわけです。ところがアメリカはボール紙と泥絵具の不器用な細工で「プロードウェイ」なんてのがおいてあってね……。ソビエト館は写実彫刻と宇宙遊泳の图画です。

赤根 ドイツ人と話してたら、日本はすっぽりと過去を振りきつて新しいものに変わっていける。しかしドイツはつねにクラシックでもって現代を解釈していく、常にクラシズムが根底にある。そこが違ひだといってました。日本は、アメリカならアメリカ一辺倒になってしまふ。よしあしは別としてそこがドイツと日本の違ひだといふんです。ベニス・ビエンナーレのパビリオンを見ると芸術に対する国の大勢がわかりますね。日本館は、石橋さんの寄付でやっと建つただけれど。

中西 なんか自己が利くというか……。エキスポでも校倉造りを鉄筋コンクリートで作つて、中はテレビなんか並べて、本当にエコノミックアニマルという感じですね。自己が利きすぎて、すべてが商売に結びついてますよ。生きのびる力というのは、それはもう、すさまじいほどあさましいという感じに思えました。全く、黒沢明のドデスカデンです。

赤根 日本というものの本質がどこにあるのか我々自身、何かウス氣味悪いですね。昔は朝鮮や中国、明治時代はドイツで、戦後はアメリカ……というわけですからね。

★拠点としての神戸

中西 ミュンヘンであつた展覧会が、二紀会関西展のようになんもありましてね。具象からシユールまで。赤根 ドイツはおもしろいですね、中央がないので。ミュンヘンはミュンヘン、シュツットガルトはシュツット

ガルト、そして、ケルン、ドュッセルドルフ、ハノーバー、ハンブルグ、ベルリンとそれぞれ作家がいて、批評家がいて、画廊がある。みんな対等で、それぞれ特色があるんです。いわゆる中心としての、東京とかニューヨークというものがなんですよ。そういう意味で神戸が文化的な拠点となることに期待しますね。神戸は昔から開かれた土地で、最近でもメキシコが入ってきたりしますからね……。(笑)

中西 陳舜臣さんもいわれるよう、海洋性といいますか、外に対して非常に敏感で活気づいてると思うんですね。それに狭い場所で色々な人と顔を合わせる機会も多め、普段付き合えないような人にも気軽に会えるといふことで、二紀会の中でも、静かな競争というか、あたたかみがありますし、そんな気持ちをもつては都合がいいところです。

赤根 都合が良すぎて、エネルギーになる前に雲散霧消してしまってることがありますね。抗体としての不毛さが無さすぎると、前に神戸っ子に書いたことがあります。海があり、山があり、環境の方が良すぎて、一つの創造的なエネルギーに高まって行くまえに散つてしまふということは大いにありますね。

中西 しかし、よどまないというのは神戸の特長ですね。大阪、東京などはよどんでしまってね。

赤根 それと京都ですね。京都には非常に古いものがガシンとしてありますので、それをこわそるとする新しいエネルギーがでてきます。それが神戸にはないんです。つまり、そのようなエネルギーが生れるための抗体がなければ、ぶちこわす対象が。だから、それをみずからの中に、自分が持つということが、非常に大事であると思います。いい意味でのローカリティを育てるためにも……。

（文責・編集部）

*中西勝画伯安井賞受賞記念パーカーは、4月8日貿易センタービル24F「パーク」で開かれ盛況でした。次号でご紹介します。

K O B E あ・さ・ひる・よる

SAVOY
LOUNGE



小林新二（元町バザー社長）
野村正行（野村病院長）
渡辺利武（マキシン社長）

サヴォイ 今日は、いつもご聴覚いただいている方々に、お集まりいただいて、神戸の良さというものを大いに語っていただこうと思っています。

★須磨の朝、昼は街並、六甲の夜

それで、早速なんですが、まず景色から……。一日を三つにわけて朝から、どうでしよう。

小林 朝は須磨の海、昔はもつと遠浅だったよう憶えますが……。情緒的なものを感じますか？

野村 時は早朝、春なら薄暮がいいでしょ。

渡辺 須磨浦観光ハウスからの眺めはいいですね。料理もいいし。

小林 これは案外知られません



若い人はやはり六甲……

〈小林さん〉

ね。ただしタクシーでないとちょっと不便だけれど……。東京の人を案内したら喜んでくれましたよ。それはいい眺めですよ。

渡辺 ただ、近くに鉄筋がムキ出してあるのがツヤ消しだけどね。桜の時期は最高ですね。桜のトンネルになってね。

野村 あの辺が、須磨のかなめになるんでしょ。住んで十年になりますが、昔の情緒はなくなりました。松が枯れてしまつたのが、おしいですね。

小林 今の若い人にアピールするのは、やはり六甲山でしょ。これは市も金かけているようだし、東京の連中でも、「一言めには六甲といいますからね。

野村 キャツチフレーズもいいし

ね。百万弗の夜景とかいつて……。

渡辺 バーベキューをやりながら

だんだん暗くなつていつてね、ア

ジサイを通して街のあかりがチラ

チラと……だんだん増えていく風

情はいいですよね。

野村 須磨にもそれだけの資本を

投下すればね。松風堂など、荒れ

放題ですからね。

小林 いかに車を通さないかを考

えないと、もう駄目ですものね。

野村 須磨、舞子の松が枯れてい

くのがイメージダウンですね。そ

れにオイルファンス……。

渡辺 我田引水じゃないけど、ト

アロードの屋もいいですよ……。

以前から神戸のシャンゼリゼにし

たいと思い続けてるのでですが。唯

一の山から海への道ですし、外国

にも名が知れていることですし、

どうしても、歩道の幅が今の二倍

は欲しいですね。

小林 シャンゼリゼの歩道なんか

十数メートルの幅があるからね。

野村 それともう一つ、北野町の

異人館界隈とトアロード、これは

どうしても切りはなすわけにはい

きませんね。

渡辺 トアホテルがなくなつてしまつて、さびしいのですが、あの

跡こそ、市でもつて、なにか思い

切つた、現代的、世界的な、なにかが欲しいですね。

小林 最近は、そういうトアロー

ドらしい店がでてきていますね。野村 北野町を描いた小松益喜さんなんかが、もう描いていないでしよう。だから、そういう意味でモチーフとなる店を作ることが結論でしような。

小林 トアロードは昔でも、洒落れた店構えというのはなかつた。

ただ、その経営者にあちらの人が多かつたということから、一つの特色ができていきましたね。外人の

小母さんが、上海へ仕入れに行つて、売っているといった店が、い

くらもありましたからね。

野村 商売をはなれても、絵にな

り、詩になる街にしなくては。

渡辺 太陽の塔を神戸に持つてく

るという話がありましたが……。

サヴォイ ポートアイランドへと

いうことでしたね。

松さんの画風でしようね。

野村 ボクはああいうものには反対だな。神戸には駄目ですね。

小林 スマートさがないね。神戸らしいというのは、小磯さんに小

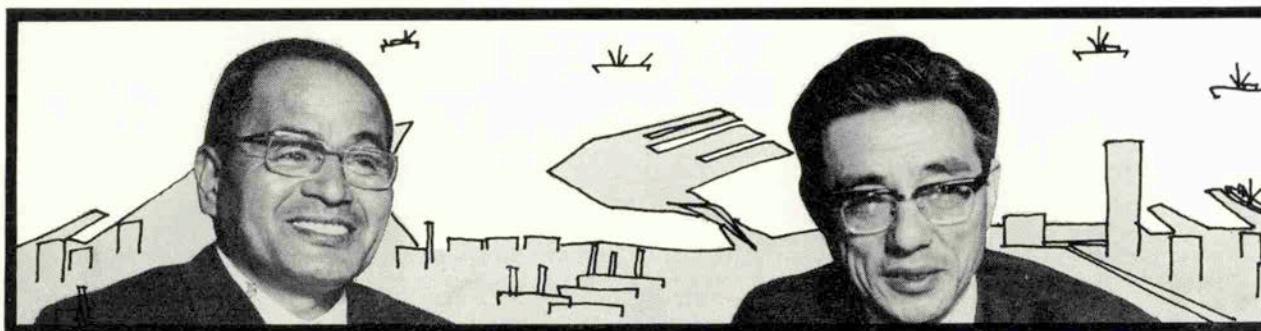
もつと、ウエットな感じを大事に

したいと思いますね。

小林 元町のスズラン灯をなつかしむようでは駄目ですけれども……。

野村 元町、トアロード、センタ

ー街で商売している人が、この頃



トアロードは神戸のシャンゼリゼ……

〈渡辺さん〉

須磨に目をむけて……

〈野村さん〉

に、そういうことがあります。それにお客様もきびしいし……。

おシャレ人口が多いのも神戸ですね。その意味で東京が一番貧しい生活です。

渡辺 ここみたいに、女の子はないけれど、楽しくほんといい酒を飲ませるという雰囲気がありますしね。

野村 が文化不毛の地とか、文化果つるところとか言われるけれども、これは違うんですよ。

今中央で活躍している人の中にも神戸に関係のある人は多いですからね。

ただ、活動の舞台が中央へ移っているだけでね……。その辺から神戸の体質をうかがえるかも知れません。

小林 それに地方からてきた人で、神戸をジャンプ台にして、活躍している人も多いですね。

野村 だから神戸人といつても、もっと絞りを調節する必要があるかも知れないです。それから、将来の神戸ということですけれども、前に出た神戸祭りのこととも関連してくると思いますが、いくらお膳立てして、思う方向へ引張つて行こうとしても、結局誰もついてこないというようなことが

★より魅力ある神戸に

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

＊

よくあるわけですね。

だから、みんなが神戸というものを認識してですね。つまりディスカバー・コーベということです。

かね。

それで、ハイマートというものを確かめた上で、徐々に形づくられしていくのが、将来の神戸というものであってほしいと思いますね。

そうでないと、オリジナルなものとかいっても、結局、お仕着せでしかないということになると單なるお祭りさわぎで終つてしまいかねませんからね。

最近は、どうしてもフィーリングとかいって上っ面しかキヤッチしてませんのでね。住みよい街とかそういうことを、もつと落ちついた心で考え、反省することが結局、神戸の良さを伸ばしていくことにつながるのでしょうかね。

サヴォイ そうですね。そういうことが今一番必要かも知れませんでは、神戸をもう一度見つめて、そしてハートのある街、神戸をつくつて行こう、ということで今日は長い間ありがとうございました。

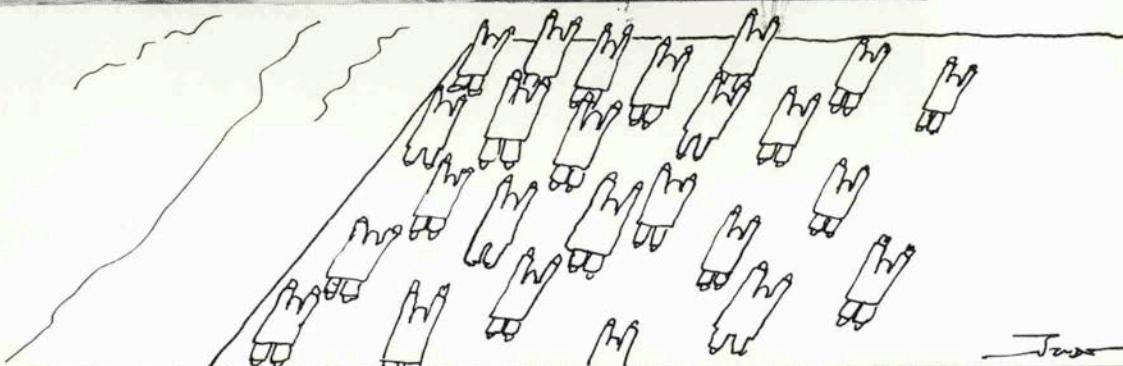
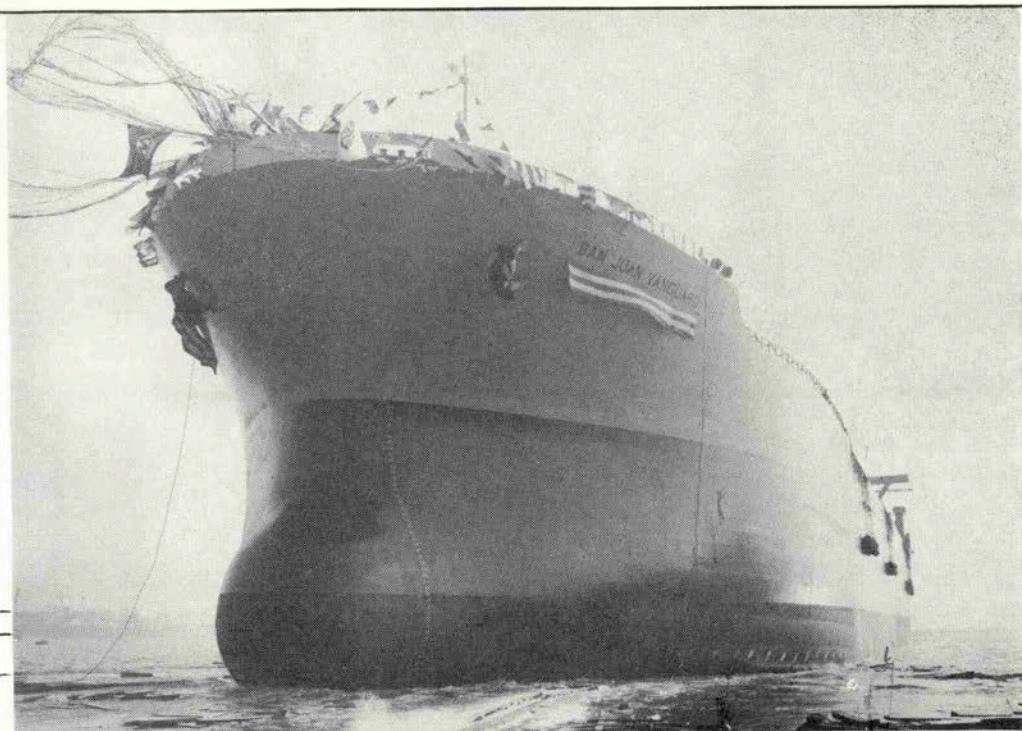
（サヴォイにて）



左より渡辺・野村・サヴォイ・小林の各氏

カクテルラウンジ
SAVOY
サヴォイ

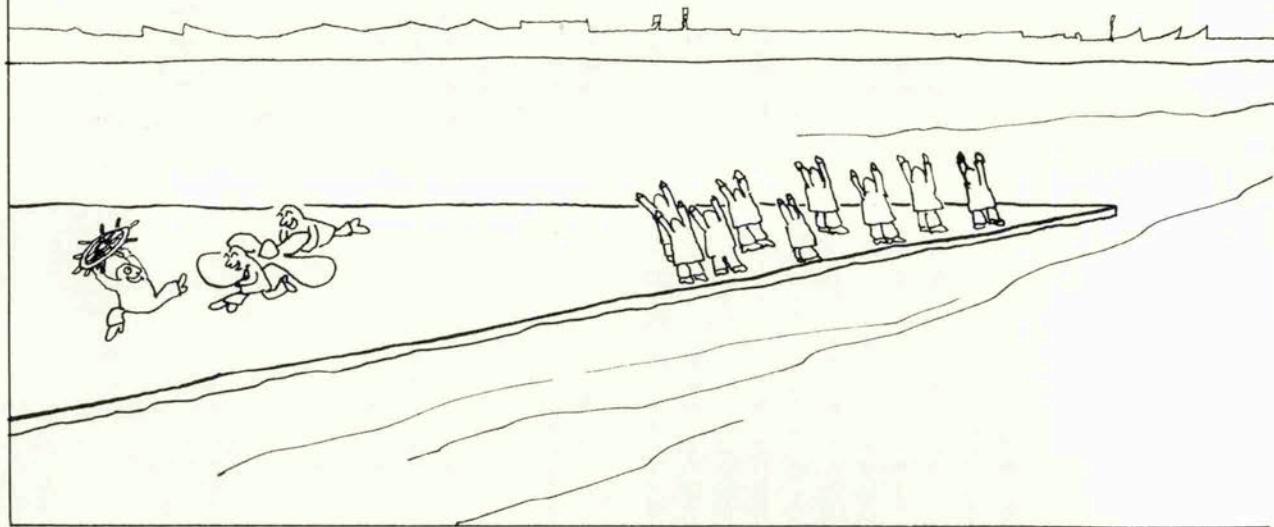
TEL 331-2615
高架山側 テキの店北



コラージュコミックス

5

進水式
岡田 淳



淀長立見席 5

男を見せる

淀川長治（映画評論家）



時計じかけのオレンジ

十三年前の「お嬢さんお手やわらかに」十二年前の「太陽がいっぱい」この二本のアラン・ドロンのフランス映画あたり

から映画は女の主役から男の主役にその位置を変えた。

これは聞えがいいが、男たちが女を眺める……のではなく、女たちが男を眺める時代に移つたということである。

男が、やたらとヒゲを生やしたのは、もう女に勝てるのはヒゲしかなくなつたわけである。戦争は男の価値を落とさせた。男の価値が下落したとき男は着飾ることで女にこびた。男が化粧をしその衣服はこりにこりはじめたが、それが時代の先きを走る映画の中に現われぬわけではない。

「真夜中のパーティー」は男だけが男の部屋で演じてきた男のみが知つた秘密までをも告白した。ソビエトの「チ

アイコフスキイ」はイギリスのケン・ラッセル監督の手によって「恋人たちの曲」（ザ・ミュージック・ラヴアーズ）といふ華麗なる題名の下にチャイコフスキイがアントン・シロフスキイ伯とのホモ関係のために苦惱にあえぐ姿をあばく。

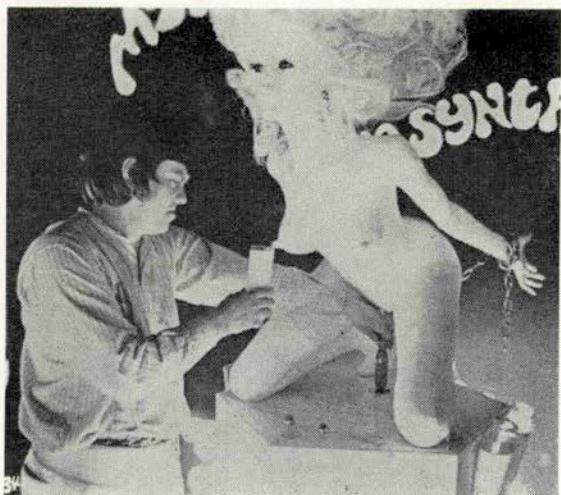
それで映画が男の時代に移つた……とはゆめ申すまい。映画が女体から男体に移つたとこそ申したいのである。

イタリア映画「エロチカ大作戦」はマルコ・ヴィカリオ製作・監督、ロッサンナ・ボデスター共演の、この御夫婦のプロデュース新作品。この夫婦コンビ作品には御存知「黄金の七人」シリーズがある。金塊泥棒、銀行泥棒。いうならば007映画の漫画スタイルである。ところがここにロッサンナ・ボデスター共演とあえて記したことく、「エロチカ大作戦」はボデスターを主役から落して巨漢ランド・ブッサンカを主役に置き変えてのこれまた堂々たる男の主演。しかも共演がボデスターはじめシルヴァ・コシナその他あわせて六人の美女。この題名に肩書きがつく。曰く「黄金の七人・1+6」。この映画、田舎から都会屋敷に召使い奉行にやつて来たその男の、そのアレが大変なシロモノ。いえそれが何とも申しかねるシロモノ。要するに男性のアレには二個のボールがありまして、そのそれがこの巨漢には三個あつたといふ珍品。

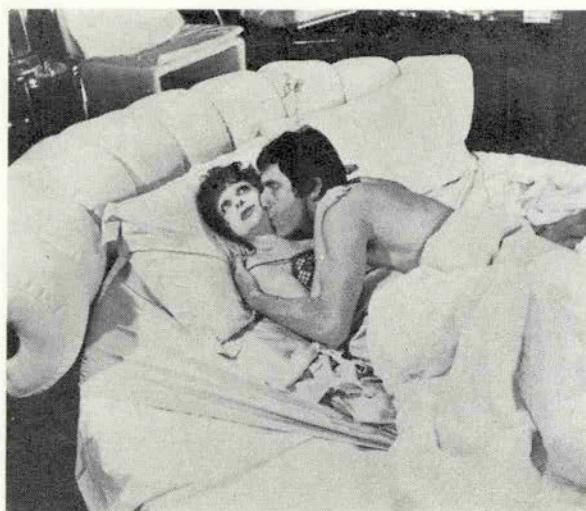
それが奥方たちの大評判。ついに彼女から彼女へとその

召使いは御使用に供せられ、さてその果ては……といふ可笑しなそれを無邪気スマートに見せたのがこの映画。まさに主役は「男」。

ところがこれが「二〇〇一年宇宙の旅」のあの曲者監督スタンリー・キューブリックの近作「時計じかけのオレンジ」となりますとこれがもう全巻まさに「男」そのものごときモダン・アート型の男性のアレ映画。時代は今から十一年くらい先きのお話。もうそのころは町の若者は暴力とセックスの明け暮れ。セックスもボルノなどという貧しくもいじけたものでない。サルマタ一着の男のアレをぶん殴る。その主人公が痛えと両手でそこを押える。いえそんのはまだなまやさしい。女の部屋のモダンなインテリアのその棚の上の純白の大理石まがいの置物はもはやはつきりと大きな男のアレ。というこの映画、いつたい何をお見せし何を語るか、そこにこの監督一流のするどい社会諷刺。彼の「博士の異常な愛情」は水爆を運ぶ軍人の突如の発狂。「二〇〇一年宇宙の旅」



黄金の7人1+6 エロチカ大作戦



時計じかけのオレンジ

感じる映画。いまようやく申すフィーリング。その……感じじることとは「ウエスト・サイド物語」からすべての美しさをはぎとつて、男だけの「ウエスト・サイド物語」の、その男も、全身その凡てが男のアレのごとき。なんとも男がここまで映画の画面にあふれ盛り上った作品は映画史上いまだかつてなく、なんとこのごろの映画は「男」に塗りつぶされたことか、それもジョン・ウェインの、あんな男そんのではなく、男風呂の中の男たち。上品な女性観客はさぞかし怒りをもつて、そして、全身を乗り出して、ごらんになるのではあるまいか。失礼。